事業の概況　連　結

損益の状況

（単位：百万円）

	平成18年度	平成19年度
粗利益	384,101	**406,707**
信託報酬	73,226	**74,628**
うち不良債権処理額	△1,360	**11**
資金運用収支	160,086	**161,750**
役務取引等収支	103,751	**102,302**
特定取引収支	8,144	**13,403**
その他業務収支	38,892	**54,622**
経費（除く臨時処理分）	△183,973	**△199,847**
一般貸倒引当金純繰入額	△17,527	**△17,023**
不良債権処理額	△23,185	**3,673**
株式等関係損益	4,814	**△2,263**
持分法による投資損益	5,861	**△2,702**
その他	81	**△51,557**
経常利益	170,171	**136,985**
特別損益	△2,393	**9,285**
税金等調整前当期純利益	167,778	**146,271**
法人税、住民税及び事業税	△59,830	**△73,747**
法人税等調整額	1,086	**14,920**
少数株主利益	△5,214	**△5,098**
当期純利益	103,820	**82,344**
与信関係費用	△42,073	**△13,338**
実質業務純益（注）1	215,485	**216,888**

（注）1. 連結の実質業務純益＝単体の実質業務純益＋他の連結子会社の経常利益(臨時要因調整後)＋持分法適用会社の経常利益(臨時要因調整後)×持分割合－内部取引(配当等)
2. 金額が損失または減益の項目には△を付しております。

主な業績指標　連　結

最近5事業年度の主要指標

（単位：百万円）

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
連結経常収益	498,256	500,949	789,875	853,365	**1,095,650**
連結経常利益	135,690	134,161	171,949	170,171	**136,985**
連結当期純利益	79,629	96,865	100,069	103,820	**82,344**
連結純資産額（注）1	802,029	909,726	1,117,991	1,447,907	**1,280,954**
連結総資産額（注）1	15,371,378	15,908,374	20,631,938	21,003,064	**22,180,734**
連結ベースの1株当たり純資産額（注）2	481.03円	545.98円	668.38円	738.77円	**639.75円**
連結ベースの1株当たり当期純利益（注）2	53.98円	59.86円	59.91円	62.05円	**49.17円**
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益（注）2	48.32円	58.07円	59.87円	62.04円	**49.17円**
連結自己資本比率（国際統一基準）（注）3	12.45%	12.50%	10.90%	11.36%	**11.84%**

（注）1. 連結純資産額及び連結総資産額の算定にあたり、平成18年度から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号）を適用しております。
2.「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）を適用しております。1株当たり純資産額は、企業会計基準適用指針第4号が改正されたことに伴い、平成18年度から繰延ヘッジ損益を含めて算出しております。
3. 連結自己資本比率は、平成18年度から、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当社は国際統一基準を採用しております。なお、平成17年度以前は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成5年大蔵省告示第55号に定められた算式に基づき算出しております。

連結財務諸表

連　結

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	平成18年度（平成19年3月31日）	平成19年度（平成20年3月31日）
（資産の部）		
現金預け金	789,472	**891,560**
コールローン及び買入手形	299,623	**140,780**
債券貸借取引支払保証金	—	**152,240**
買入金銭債権	753,314	**581,167**
特定取引資産（注）7	608,887	**1,078,192**
金銭の信託	20,031	**17,533**
有価証券（注）1,7,16	5,265,243	**4,602,451**
貸出金（注）2,3,4,5,6,7	10,487,237	**10,746,228**
外国為替	6,618	**7,946**
金融派生商品	——	**1,802,243**
その他資産（注）7,12	2,077,233	**1,414,171**
有形固定資産（注）10,11	131,120	**132,743**
建物	34,180	**35,499**
土地（注）9	86,808	**86,075**
建設仮勘定	478	**61**
その他の有形固定資産	9,652	**11,107**
無形固定資産	134,619	**148,241**
ソフトウェア	28,595	**31,480**
のれん	104,877	**115,508**
その他の無形固定資産	1,146	**1,252**
繰延税金資産	26,187	**83,050**
支払承諾見返（注）16	516,865	**488,865**
貸倒引当金	△106,671	**△106,683**
投資損失引当金	△6,718	**—**
資産の部合計	21,003,064	**22,180,734**
（負債の部）		
預金（注）7	11,361,270	**11,875,749**
譲渡性預金	2,354,648	**2,456,695**
コールマネー及び売渡手形	153,620	**140,152**
売現先勘定（注）7	683,686	**790,588**
債券貸借取引受入担保金（注）7	292,166	**131,957**
特定取引負債	53,682	**338,217**
借用金（注）7,13	927,931	**883,039**
外国為替	4	**0**
短期社債	333,959	**356,754**
社債（注）14	549,455	**598,859**
信託勘定借	1,319,548	**747,554**
金融派生商品	——	**1,620,494**
その他負債	878,955	**437,776**
賞与引当金	5,752	**6,272**
役員賞与引当金	85	**75**
退職給付引当金	10,078	**9,636**
預金払戻損失引当金	——	**819**
偶発損失引当金	——	**7,806**
移転関連費用引当金	—	**2,243**
繰延税金負債	107,334	**198**
再評価に係る繰延税金負債（注）9	6,113	**6,021**
支払承諾（注）16	516,865	**488,865**
負債の部合計	19,555,157	**20,899,780**
（純資産の部）		
資本金	287,517	**287,537**
資本剰余金	242,538	**242,555**
利益剰余金	429,674	**483,686**
自己株式	△389	**△441**
株主資本合計	959,340	**1,013,338**
その他有価証券評価差額金	295,213	**65,958**
繰延ヘッジ損益	△9,710	**1,107**
土地再評価差額金（注）9	△4,168	**△4,306**
為替換算調整勘定	△3,517	**△4,729**
評価・換算差額等合計	277,817	**58,029**
少数株主持分	210,749	**209,586**
純資産の部合計	1,447,907	**1,280,954**
負債及び純資産の部合計	21,003,064	**22,180,734**

連結財務諸表

連結損益計算書

（単位：百万円）

	平成18年度（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）	平成19年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）
経常収益	853,365	**1,095,650**
信託報酬	73,226	**74,628**
資金運用収益	344,541	**405,653**
貸出金利息	184,710	**217,297**
有価証券利息配当金	127,848	**155,468**
コールローン利息及び買入手形利息	7,855	**7,198**
債券貸借取引受入利息	180	**302**
預け金利息	16,409	**13,992**
その他の受入利息	7,538	**11,395**
役務取引等収益	134,250	**131,132**
特定取引収益	8,311	**16,288**
その他業務収益	261,632	**418,847**
その他経常収益（注）1	31,403	**49,099**
経常費用	683,194	**958,664**
資金調達費用	184,455	**243,903**
預金利息	94,162	**107,546**
譲渡性預金利息	19,259	**28,582**
コールマネー利息及び売渡手形利息	1,400	**3,723**
売現先利息	36,257	**41,717**
債券貸借取引支払利息	3,324	**2,582**
借用金利息	5,504	**8,891**
短期社債利息	1,311	**2,952**
社債利息	9,014	**15,527**
その他の支払利息	14,221	**32,379**
役務取引等費用	30,498	**28,829**
特定取引費用	166	**2,885**
その他業務費用	222,739	**364,225**
営業経費	183,334	**202,939**
その他経常費用	61,998	**115,880**
貸倒引当金繰入額	34,181	**1,519**
その他の経常費用（注）2	27,816	**114,361**
経常利益	170,171	**136,985**
特別利益	5,214	**11,448**
固定資産処分益	2,273	**614**
償却債権取立益	441	**865**
その他の特別利益（注）3	2,500	**9,969**
特別損失	7,607	**2,163**
固定資産処分損	518	**1,993**
減損損失	7,088	**170**
税金等調整前当期純利益	167,778	**146,271**
法人税、住民税及び事業税	59,830	**73,747**
法人税等調整額	△1,086	**△14,920**
少数株主利益	5,214	**5,098**
当期純利益	103,820	**82,344**

連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

	平成19年度（自平成19年4月1日　至平成20年3月31日）				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	287,517	242,538	429,674	△389	959,340
連結会計年度中の変動額					
新株の発行	19	19			39
剰余金の配当		—	△28,468		△28,468
当期純利益			82,344		82,344
自己株式の取得				△81	△81
自己株式の処分		△2	—	30	27
土地再評価差額金の取崩			136		136
海外投資等損失準備金の減少			△0		△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計	19	16	54,012	△51	53,997
平成20年3月31日残高	287,537	242,555	483,686	△441	1,013,338

（単位：百万円）

	平成19年度（自平成19年4月1日　至平成20年3月31日）						
	評価・換算差額等					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	295,213	△9,710	△4,168	△3,517	277,817	210,749	1,447,907
連結会計年度中の変動額							
新株の発行							39
剰余金の配当							△28,468
当期純利益							82,344
自己株式の取得							△81
自己株式の処分							27
土地再評価差額金の取崩							136
海外投資等損失準備金の減少							△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	△229,254	10,817	△137	△1,212	△219,787	△1,163	△220,950
連結会計年度中の変動額合計	△229,254	10,817	△137	△1,212	△219,787	△1,163	△166,952
平成20年3月31日残高	65,958	1,107	△4,306	△4,729	58,029	209,586	1,280,954

連結財務諸表

（単位：百万円）

	平成18年度（自平成18年4月1日　至平成19年3月31日）				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日残高	287,283	240,703	349,751	△251	877,487
連結会計年度中の変動額					
新株の発行	233	1,832			2,066
剰余金の配当（注）		—	△10,035		△10,035
剰余金の配当		—	△14,221		△14,221
役員賞与（注）			△70		△70
当期純利益			103,820		103,820
自己株式の取得				△145	△145
自己株式の処分		2	—	6	9
土地再評価差額金の取崩			429		429
海外投資等損失準備金の増加			0		0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計	233	1,835	79,922	△138	81,853
平成19年3月31日残高	287,517	242,538	429,674	△389	959,340

（単位：百万円）

	平成18年度（自平成18年4月1日　至平成19年3月31日）						
	評価・換算差額等					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	248,116	——	△3,740	△3,871	240,504	159,085	1,277,076
連結会計年度中の変動額							
新株の発行							2,066
剰余金の配当（注）							△10,035
剰余金の配当							△14,221
役員賞与（注）							△70
当期純利益							103,820
自己株式の取得							△145
自己株式の処分							9
土地再評価差額金の取崩							429
海外投資等損失準備金の増加							0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	47,096	△9,710	△427	354	37,312	51,663	88,976
連結会計年度中の変動額合計	47,096	△9,710	△427	354	37,312	51,663	170,830
平成19年3月31日残高	295,213	△9,710	△4,168	△3,517	277,817	210,749	1,447,907

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	平成18年度（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）	平成19年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）
Ⅰ営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	167,778	146,271
減価償却費	14,071	15,313
減損損失	7,088	170
のれん償却額	6,171	8,238
持分法による投資損益（△）	△5,861	2,702
貸倒引当金の増加額	29,259	△503
投資損失引当金の増加額	6,718	△6,718
賞与引当金の増加額	△81	275
役員賞与引当金の増加額	85	△10
退職給付引当金の増加額	△635	△522
預金払戻損失引当金の増加額	——	819
偶発損失引当金の増加額	——	7,806
移転関連費用引当金の増加額	—	2,243
資金運用収益	△344,541	△405,653
資金調達費用	184,455	243,903
有価証券関係損益（△）	△3,495	3,666
金銭の信託の運用損益（△）	△680	2,378
為替差損益（△）	△84,777	92,386
固定資産処分損益（△）	△1,754	1,378
特定取引資産の純増（△）減	△173,842	△469,305
特定取引負債の純増減（△）	△16,179	284,535
貸出金の純増（△）減	△257,487	△156,667
預金の純増減（△）	997,277	518,377
譲渡性預金の純増減（△）	△54,008	102,046
借用金（劣後特約付借入金を除く）の純増減（△）	37,130	△131,728
預け金（日銀預け金を除く）の純増（△）減	△147,239	△58,073
コールローン等の純増（△）減	75,699	333,093
債券貸借取引支払保証金の純増（△）減	—	△152,240
コールマネー等の純増減（△）	△815,431	93,434
債券貸借取引受入担保金の純増減（△）	△410,884	△160,208
外国為替（資産）の純増（△）減	△3,534	△1,327
外国為替（負債）の純増減（△）	2	△3
短期社債（負債）の純増減（△）	△90,454	22,784
普通社債の発行・償還による純増減（△）	—	2,150
信託勘定借の純増減（△）	△413,898	△571,993
資金運用による収入	336,732	410,907
資金調達による支出	△166,196	△242,958
その他	△37,586	5,100
小計	△1,166,098	△57,930
法人税等の支払額	△8,396	△95,829
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,174,494	△153,759
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△3,532,205	△7,926,748
有価証券の売却による収入	3,386,301	7,304,575
有価証券の償還による収入	978,915	853,548
金銭の信託の増加による支出	△5,000	—
金銭の信託の減少による収入	417	119
有形固定資産の取得による支出	△51,725	△10,915
有形固定資産の売却による収入	3,722	1,484
無形固定資産の取得による支出	△12,259	△13,351
無形固定資産の売却による収入	0	24
連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得による支出	△23,462	△24,225
連結子会社株式の取得による支出	△399	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	744,304	184,510
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入による収入	—	45,000
劣後特約付借入金の返済による支出	—	△58,500
劣後特約付社債・新株予約権付社債の発行による収入	205,203	89,527
劣後特約付社債・新株予約権付社債の償還による支出	△46,800	△26,900
株式の発行による収入	466	39
少数株主からの払込による収入	51,735	—
配当金支払額	△24,248	△28,522
少数株主への配当金支払額	△4,492	△6,031
自己株式の取得による支出	△145	△81
自己株式の売却による収入	10	27
財務活動によるキャッシュ・フロー	181,729	14,559
Ⅳ現金及び現金同等物に係る換算差額	250	△1,295
Ⅴ現金及び現金同等物の増加額	△248,209	44,014
Ⅵ現金及び現金同等物の期首残高	691,450	443,240
Ⅶ現金及び現金同等物の期末残高	443,240	487,255

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項（平成19年度）

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社　36社

主要な会社名

住信・松下フィナンシャルサービス株式会社

ファーストクレジット株式会社

すみしん不動産株式会社

住信アセットマネジメント株式会社

Sumitomo Trust and Banking Co.(U.S.A.)

なお、ライフ住宅ローン株式会社ほか2社は、株式取得等により、当連結会計年度から連結しております。

また、スミセイ・リース株式会社は、住信リース株式会社と合併しております。

(2) 非連結子会社

主要な会社名

住信iファンドⅠ投資事業組合

ハミングバード株式会社ほか42社は、匿名組合方式による賃貸事業を行う営業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないものであるため、連結財務諸表規則第5条第1項第2号により連結の範囲から除外しております。

また、その他の非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

（追加情報）

財務諸表等規則第8条7項の規定により出資者等の子会社に該当しないものと推定された特別目的会社1社は、連結の範囲から除外しております。

なお、「一定の特別目的会社に係る開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第15号 平成19年3月29日）が平成19年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同適用指針を適用しておりますが、当該特別目的会社の開示に関し、重要性が乏しいものであるため注記を省略しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

(2) 持分法適用の関連会社　7社

主要な会社名

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

住信SBIネット銀行株式会社（株式会社SBI住信ネットバンク設立準備調査会社より社名変更）

ビジネクスト株式会社

(3) 持分法非適用の非連結子会社及び関連会社

主要な会社名

住信iファンドⅠ投資事業組合

ハミングバード株式会社ほか42社は、匿名組合方式による賃貸事業を行う営業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないものであるため、連結財務諸表規則第10条第1項第2号により持分法の対象から除いております。

また、その他の持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。

8月末日	1社
11月末日	1社
12月末日	11社
1月末日	3社
3月末日	20社

(2) 8月末日を決算日とする子会社、11月末日を決算日とする子会社については、2月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の子会社については、それぞれの決算日の財務諸表により連結しております。

連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、有価証券市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的（以下「特定取引目的」という）の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、持分法非適用の非連結子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のある株式については連結決算日前1カ月の市場価格の平均に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、株式以外の時価のあるものについては連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

（追加情報）

従来「時価評価されていない有価証券」に分類してきた、海外資産担保証券の一部について、時価の取得とその検証が可能となったことから、「時価のある有価証券」に区分変更し純資産直入及び時価のある有価証券としての減損処理の対象としております。これにより、有価証券が4,032百万円、その他有価証券評価差額金が2,394百万円減少し、繰延税金資産が1,637百万円増加したほか、経常利益及び税金等調整前当期純利益は14,597百万円それぞれ減少しております。

(ロ) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引（特定取引目的の取引を除く）の評価は、

時価法により行っております。

(4) 減価償却の方法

①有形固定資産

当社の有形固定資産は、定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物　3年～60年

動産　2年～20年

連結子会社の有形固定資産については、主として定率法により償却しております。

（会計方針の変更）

平成19年度税制改正に伴い、平成19年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく償却方法により減価償却費を計上しております。これによる連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。

（追加情報）

当連結会計年度より、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、償却可能限度額に達した連結会計年度の翌連結会計年度以後、取得価額の5％相当額と備忘価額との差額を5年間で均等償却しております。なお、これによる連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。

②無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社及び連結子会社で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

当社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者並びにその他今後の管理に注意を要する債務者のうち一定範囲に区分される信用リスクを有する債務者で、与信額が一定額以上の大口債務者に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができるものについては、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率等、債権の発生当初の約定利子率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により引当てております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業店及び審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立したリスク統括部が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引当てております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は32,227百万円であります。

(6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払に備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7) 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払に備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(8) 退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。

過去勤務債務

その発生年度の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として10年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異

各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

(9) 預金払戻損失引当金の計上基準

預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

（会計方針の変更）

負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理しておりましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号）が平成19年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることに伴い、当連結会計年度から同報告を適用し、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、経常利益及び税金等調整前当期純利益は819百万円それぞれ減少しております。

(10) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信託取引等に関して偶発的に発生する損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失を個別に見積り、必要と認められる額を計上しております。

（表示方法の変更）

偶発損失引当金は、前連結会計年度において「貸倒引当金」に含めて表示しておりましたが、金額的な重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。なお、前連結会計年度における当該金額は2,888百万円であります。

(11) 移転関連費用引当金の計上基準

移転関連費用引当金は、東京地区拠点ビルの統廃合及び共同開発等に伴い発生する損失に備えるため、合理的な見積額を計上しております。

(12) 外貨建資産・負債の換算基準

当社の外貨建資産・負債及び海外支店勘定は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

(13) リース取引の処理方法

当社及び国内連結子会社のリース物件の所有権が借主に移転

すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

(14) 重要なヘッジ会計の方法

(イ)金利リスク・ヘッジ

当社の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下「業種別監査委員会報告第24号」という)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

また、当連結会計年度末の連結貸借対照表に計上している繰延ヘッジ損益のうち、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第15号)を適用して実施しておりました多数の貸出金・預金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する従来の「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損益は、「マクロヘッジ」で指定したそれぞれのヘッジ手段の残存期間に応じ期間配分しております。

なお、当連結会計年度末における「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損失は28,797百万円(税効果額控除前)、繰延ヘッジ利益は27,734百万円(同前)であります。

(ロ)為替変動リスク・ヘッジ

当社の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。以下「業種別監査委員会報告第25号」という)に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

また、外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に包括ヘッジとして時価ヘッジを適用しております。

(ハ)連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、一部の資産・負債については、個別取引毎の繰延ヘッジを行っております。

連結子会社のヘッジ会計の方法は、個別取引毎の繰延ヘッジ、時価ヘッジ、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

(15) 消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産の取得に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項

のれん及び負ののれんの償却については、その個別案件毎に判断し、20年以内の合理的な年数で償却しております。ただし、重要性の乏しいものについては、発生会計年度に全額償却しております。

7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、当社については連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。連結子会社については連結貸借対照表上の「現金預け金」であります。

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更(平成19年度)

(金融商品に関する会計基準)

「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)及び「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)等における有価証券の範囲に関する規定が一部改正され(平成19年6月15日付及び同7月4日付)、金融商品取引法の施行日以後に終了する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から改正会計基準及び実務指針を適用しております。

(連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針)

企業集団内の会社に投資(子会社株式等)を売却した場合の税効果会計について、「連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第6号平成19年3月29日)の第30－2項を当連結会計年度から適用しております。これにより、従来の方法に比べ当期純利益が4,134百万円減少しております。

表示方法の変更(平成19年度)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「その他資産」に含めて表示しておりました「金融派生商品」(前連結会計年度591,937百万円)、及び、「その他負債」に含めて表示しておりました「金融派生商品」(前連結会計年度567,599百万円)は、資産総額の100分の5を超えたため、当連結会計年度より区分掲記しております。

注記事項(平成19年度)

(連結貸借対照表関係)

1. 有価証券には、非連結子会社及び関連会社の株式30,190百万円及び出資金17,176百万円が含まれております。
2. 貸出金のうち、破綻先債権額は1,126百万円、延滞債権額は56,110百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は4百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は77,668百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
5. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は134,910百万円であります。
なお、上記2.から5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は5,089百万円であります。
7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
特定取引資産	343,204百万円
有価証券	1,118,018百万円
貸出金	267,889百万円
その他資産	37,788百万円
担保資産に対応する債務	
預金	35,211百万円
売現先勘定	790,588百万円
債券貸借取引受入担保金	131,957百万円
借用金	174,667百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券571,967百万円、その他資産197百万円を差し入れております。
また、その他資産のうち先物取引差入証拠金は4,777百万円、保証金は16,786百万円、デリバティブ取引の差入担保金は5,076百万円であります。
8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は8,241,981百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが6,655,788百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当社及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当社及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
9. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布　法律第34号）に基づき、当社の事業用土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日　平成11年3月31日	
同法律第3条第3項に定める再評価の方法	
土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布　政令第119号）第2条第1号に定める標準地の公示価格及び同条第4号に定める路線価に基づいて、合理的な調整を行って算出。	
同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額	4,049百万円

10. 有形固定資産の減価償却累計額　104,863百万円
11. 有形固定資産の圧縮記帳額　28,337百万円
（当連結会計年度圧縮記帳額　—百万円）
12. その他資産には、過去に海外市場で行ったレポ取引の一部について、当社に源泉所得税の徴収義務があったとして課税認定を受け、納付の上で課税の適否を争っている金額6,316百万円が含まれております。当社としては、本件は法的根拠を欠く不当なものであり、到底容認できないとの判断から、国税不服審判所への審査請求を経て、平成17年3月31日付で東京地方裁判所に訴訟を提起し、平成19年4月17日付で当社勝訴の判決を受けました。国側は同年5月1日付で東京高等裁判所に控訴しましたが、平成20年3月12日付で控訴棄却の判決の言渡しを受け、同年3月26日付で上告受理の申立てを行っております。
13. 借用金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金125,000百万円が含まれております。
14. 社債には、劣後特約付社債583,859百万円が含まれております。
15. 当社の受託する元本補てん契約のある信託の元本金額は、金銭信託696,894百万円、貸付信託284,609百万円であります。
16. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は118,207百万円であります。

（連結損益計算書関係）

1. その他経常収益には、株式等売却益31,403百万円を含んでおります。
2. その他の経常費用には、海外クレジット投資ポートフォリオの見直しに伴う有価証券の減損損失40,748百万円及び売却損7,480百万円、株式等償却30,555百万円を含んでおります。
3. その他の特別利益は、退職給付信託返還益であります。

（連結株主資本等変動計算書関係）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

（単位：千株）

	前連結会計年度末株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,675,034	94	—	1,675,128	（注）1
自己株式					
普通株式	429	80	32	477	（注）2、3

（注）1. 普通株式の発行済株式数の増加94千株は新株予約権の権利行使による増加であります。
2. 普通株式の自己株式数の増加80千株は単元未満株式の買取による増加であります。
3. 普通株式の自己株式数の減少32千株は単元未満株式の買増請求による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たりの金額（円）	基準日	効力発生日
平成19年6月28日定時株主総会	普通株式	14,234	8.50	平成19年3月31日	平成19年6月29日
平成19年11月15日取締役会	普通株式	14,234	8.50	平成19年9月30日	平成19年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たりの金額（円）	基準日	効力発生日
平成20年6月27日定時株主総会	普通株式	14,234	利益剰余金	8.50	平成20年3月31日	平成20年6月30日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

（単位：百万円）

平成20年3月31日現在	
現金預け金勘定	891,560
当社の預け金（日銀預け金を除く）	△404,305
現金及び現金同等物	487,255

2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により、ライフ住宅ローン株式会社が連結子会社となったことに伴い、増加した資産及び負債の内訳、並びに同社株式取得による支出との関係は次のとおりであります。

資産	109,203
（うち貸出金）	（102,227）
負債	△102,887
（うち借用金）	（△100,900）
のれん	18,974
同社株式取得価額	25,291
同社現金及び現金同等物	△1,189
差引：同社株式取得による支出	24,101

（リース取引関係）

1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

（借手側）

①リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び年度末残高相当額

取得価額相当額	
その他資産	—百万円
有形固定資産	36百万円
無形固定資産	3百万円
合計	40百万円
減価償却累計額相当額	
その他資産	—百万円
有形固定資産	31百万円
無形固定資産	2百万円
合計	34百万円
減損損失累計額相当額	
その他資産	—百万円
有形固定資産	—百万円
無形固定資産	—百万円
合計	—百万円
年度末残高相当額	
その他資産	—百万円
有形固定資産	5百万円
無形固定資産	0百万円
合計	5百万円

（注）1. 取得価額相当額は、未経過リース料年度末残高が有形固定資産の年度末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。
2. 従来、取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び年度末残高相当額は、「動産」又は「その他」に区分して表示しておりましたが、当連結会計年度から「その他資産」、「有形固定資産」又は「無形固定資産」に区分して表示しております。

②未経過リース料年度末残高相当額

1年内	307百万円
1年超	493百万円
合計	801百万円

（注）未経過リース料年度末残高相当額は、未経過リース料年度末残高が有形固定資産の年度末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。

③リース資産減損勘定の年度末残高

—百万円

④支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

支払リース料	12百万円
リース資産減損勘定の取崩額	—百万円
減価償却費相当額	12百万円
減損損失	—百万円

⑤減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

（貸手側）

①リース物件の取得価額、減価償却累計額、減損損失累計額及び年度末残高

取得価額

その他資産	1,817,083百万円
有形固定資産	—百万円
無形固定資産	—百万円
合計	1,817,083百万円

減価償却累計額

その他資産	1,182,933百万円
有形固定資産	—百万円
無形固定資産	—百万円
合計	1,182,933百万円

減損損失累計額

その他資産	—百万円
有形固定資産	—百万円
無形固定資産	—百万円
合計	—百万円

年度末残高

その他資産	634,150百万円
有形固定資産	—百万円
無形固定資産	—百万円
合計	634,150百万円

（注）従来、取得価額、減価償却累計額、減損損失累計額及び年度末残高は、「動産」又は「その他」に区分して表示しておりましたが、当連結会計年度から、「その他資産」、「有形固定資産」又は「無形固定資産」に区分して表示しております。

②未経過リース料年度末残高相当額

1年内	213,560百万円
1年超	427,338百万円
合計	640,899百万円

このうち、転貸リース取引に係る貸手側の未経過リース料の年度末残高相当額は796百万円（うち1年以内302百万円）であります。なお、借手側の残高相当額はおおむね同一であり、上記の借手側の注記②未経過リース料年度末残高相当額に含まれております。

③受取リース料、減価償却費及び受取利息相当額

受取リース料	274,475百万円
減価償却費	240,440百万円
受取利息相当額	30,860百万円

④利息相当額の算定方法

リース料総額と見積残存価額の合計額からリース物件の取得価額を控除した額を利息相当額とし、各期への配分については、利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

（借手側）

・未経過リース料

1年内	5,673百万円
1年超	5,699百万円
合計	11,373百万円

（貸手側）

・未経過リース料

1年内	26,653百万円
1年超	65,318百万円
合計	91,972百万円

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

（当社）

・厚生年金基金制度：昭和41年11月に発足し、加算型であります。

・適格退職年金制度：昭和60年9月に退職一時金制度の一部を移行して発足しました。

・退職一時金制度　：退職金規定に基づく退職一時金制度を採用しております。
また、嘱託職員については、内規に基づく退職一時金制度を設けております。

・確定拠出年金制度：平成15年4月より導入しております。

・退職給付信託　　：厚生年金基金制度、退職一時金制度及び適格退職年金制度について設定しております。

（連結子会社）

・退職一時金制度、適格退職年金制度、厚生年金基金制度及び確定給付企業年金制度を採用しており、一部の連結子会社は、総合設立型の厚生年金基金制度を有しております。

2. 退職給付債務に関する事項

区　分		当連結会計年度（平成20年3月31日）金額（百万円）
退職給付債務	(A)	△235,645
年金資産	(B)	237,143
未積立退職給付債務	(C) = (A) + (B)	1,498
未認識数理計算上の差異	(D)	66,683
未認識過去勤務債務	(E)	1,354
連結貸借対照表計上額純額	(F) = (C) + (D) + (E)	69,535
前払年金費用	(G)	79,172
退職給付引当金	(F) − (G)	△9,636

（注）1. 年金資産には退職給付信託による資産が含まれております。
2. 退職給付債務には、厚生年金基金の代行部分を含めて記載しております。
3. 当社の嘱託職員に対する退職一時金制度及び一部を除く連結子会社の退職給付制度は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

区　分	当連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）金額（百万円）
勤務費用	6,153
利息費用	4,566
期待運用収益	△12,408
過去勤務債務の費用処理額	318
数理計算上の差異の費用処理額	2,517
その他（退職加算金等）	△205
退職給付費用	942
退職給付信託返還益（注）2	△9,969
計	△9,026

（注）1. 簡便法を採用している当社の嘱託職員に対する退職一時金制度に関わる退職給付費用及び一部を除く連結子会社の退職給付費用は、一括して「勤務費用」に含めて計上しております。
2. その他の特別利益として計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

区　分	当連結会計年度（平成20年3月31日）
(1)割引率	2.0%
(2)期待運用収益率	2.0%～4.7%
(3)退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(4)過去勤務債務の額の処理年数	主として10年（その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により、損益処理することとしております）
(5)数理計算上の差異の処理年数	主として10年（各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理することとしております）

（ストック・オプション等関係）

1. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1)ストック・オプションの内容

決議年月日	平成15年6月27日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役13人 当社執行役員13人 当社従業員415人
株式の種類及び付与数	普通株式1,186,000株
付与日	平成15年6月30日
権利確定条件	定めなし
対象勤務期間	定めなし
権利行使期間	自　平成17年7月１日 至　平成19年6月30日

(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

決議年月日	平成15年６月27日
権利確定前	
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後	
前連結会計年度末	99,000株
権利確定	—
権利行使	94,000株
失効	5,000株
未行使残	—

②単価情報

権利行使価格	415円
行使時平均株価	1,217円
付与日における公正な評価単価	―――

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
有価証券償却有税分	52,474百万円
貸倒引当金	
損金算入限度超過額（貸出金償却含む）	42,602百万円
退職給付引当金	15,874百万円
税務上の繰越欠損金	7,113百万円
その他	31,724百万円
繰延税金資産小計	149,789百万円
評価性引当額	△13,445百万円
繰延税金負債との相殺	△53,293百万円
繰延税金資産合計	83,050百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	45,235百万円
その他	8,256百万円
繰延税金負債小計	53,491百万円
繰延税金資産との相殺	△53,293百万円
繰延税金負債合計	198百万円

2. 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため、注記を省略しております。

（関連当事者との取引）

関連当事者との取引について記載すべき重要なものはありません。

（1株当たり情報）

		当連結会計年度 （自 平成19年4月１日 至 平成20年3月31日）
1株当たり純資産額	円	639.75
1株当たり当期純利益	円	49.17
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	円	49.17

（注）1. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		当連結会計年度 （自 平成19年4月１日 至 平成20年3月31日）
1株当たり当期純利益		
当期純利益	百万円	82,344
普通株主に帰属しない金額	百万円	—
普通株式に係る当期純利益	百万円	82,344
普通株式の期中平均株式数	千株	1,674,645
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額	百万円	—
普通株式増加数	千株	10
うち新株予約権	千株	10
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		―――

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		当連結会計年度 （平成20年3月31日）
純資産の部の合計額	百万円	1,280,954
純資産の部の合計額から控除する金額	百万円	209,586
うち少数株主持分	百万円	209,586
普通株式に係る期末の純資産額	百万円	1,071,368
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	千株	1,674,651

（重要な後発事象）

当社は、平成20年5月26日開催の取締役会において、英領ケイマン諸島に、当社が議決権を100％所有する海外特別目的会社STB Preferred Capital 4（Cayman）Limitedを設立することを決議致しました。同社は、平成20年6月24日の優先出資証券の発行に伴い、当社の特定子会社となっております。

(1)会社の概要

①名称

STB Preferred Capital 4（Cayman）Limited

②設立の目的・事業の内容及び規模

優先出資証券の発行及び当社への劣後ローンの供与であり、本件発行代わり金は、全額、当社の資本増強に使用され、関係法令に基づく必要な届出等を前提に、自己資本比率規制における基本的項目に算入される予定であります。

資本金		
普通株式		16億円
優先出資証券		1,100億円

(2)発行済株式の数及び持分比率

①普通株式		1,600,000株
持分比率	当社	100％
②優先出資証券		11,000株
持分比率	当社以外	100％
議決権なし		

（注）当社の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表については、平成18年度は証券取引法第193条の2の規定に基づき、平成19年度は金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あずさ監査法人の監査証明を受けております。前掲の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書は、上記の連結財務諸表に基づいて作成しております。なお、銀行法第20条第2項の規定により作成した書面は、会社法第396条第1項の規定により、あずさ監査法人の監査を受けております。

有価証券関係　連　結

平成19年度

※ 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金、並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等を含めて記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位:百万円)

	平成20年3月末	
	連結貸借対照表計上額	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	619,510	450

(2) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	平成20年3月末				
	連結貸借対照表計上額	時　価	差　額	うち益	うち損
国債	439,374	447,281	7,906	7,906	0
地方債	100	100	0	0	0
短期社債	—	—	—	—	—
社債	136,890	136,929	38	93	54
その他	281	316	34	35	0
外国債券	281	316	34	35	0
合計	576,646	584,627	7,980	8,036	56

(注) 1. 時価は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。
2.「うち益」「うち損」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(3) その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	平成20年3月末				
	取得原価	連結貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
株式	478,667	669,831	191,163	217,008	25,844
債券	829,653	829,100	△552	5,021	5,573
国債	648,503	649,475	971	4,486	3,515
地方債	25,441	25,623	182	210	28
短期社債	—	—	—	—	—
社債	155,708	154,001	△1,706	323	2,030
その他	2,603,717	2,523,932	△79,785	17,814	97,599
外国株式	374	1,112	738	738	—
外国債券	1,979,586	1,910,582	△69,003	12,700	81,704
その他	623,756	612,236	△11,519	4,375	15,895
合計	3,912,038	4,022,864	110,826	239,843	129,017

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、株式については当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。
2.「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。
3. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という）しております。
当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について13,609百万円、その他の証券について3,994百万円減損処理を行っております。
減損処理において、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定において、有価証券の発行会社の区分が正常先に該当するものについては、時価が取得原価に比べ50％以上下落した場合とし、今後の管理に注意を要する要注意先以下に該当するものについては、時価が取得原価に比べ30％以上下落した場合であります。
なお、昨今の国際金融市場の混乱に鑑みると、時価の回復基調が認められない状況にあることから、当連結会計年度においては、外国証券について、時価が取得原価に比べ30％以上下落したものを中心に54,944百万円追加的に減損処理を行っております。

有価証券関係

(4) 平成19年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 平成19年度中に売却したその他有価証券

(単位:百万円)

	平成19年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他有価証券	7,198,861	92,800	9,569

(6) 時価評価されていない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額

(単位:百万円)

	平成20年3月末
その他有価証券	
非上場債券	242,287

(7) 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

(8) その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額

(単位:百万円)

	平成20年3月末			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
債券	338,883	588,429	401,554	318,885
国債	172,210	294,614	304,549	317,474
地方債	4,862	13,914	6,946	—
短期社債	—	——	——	——
社債	161,810	279,900	90,057	1,411
その他	61,187	616,935	1,015,865	747,942
外国債券	52,779	522,615	842,493	494,688
その他	8,407	94,319	173,372	253,253
合計	400,070	1,205,365	1,417,419	1,066,828

平成18年度

※ 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金、並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等を含めて記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位:百万円)

	平成19年3月末	
	連結貸借対照表計上額	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	534,464	218

(2) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	平成19年3月末				
	連結貸借対照表計上額	時　価	差　額	うち益	うち損
国債	502,183	501,472	△711	785	1,497
地方債	100	99	△0	0	0
短期社債	—	—	—	—	—
社債	204,292	203,361	△930	—	930
その他	295	322	27	29	1
外国債券	295	322	27	29	1
合計	706,871	705,256	△1,614	815	2,429

(注) 1. 時価は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。
2.「うち益」「うち損」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(3) その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

	平成19年3月末				
	取得原価	連結貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
株式	481,914	989,188	507,273	514,775	7,501
債券	955,035	951,480	△3,555	1,340	4,895
国債	623,930	621,497	△2,433	802	3,235
地方債	62,061	61,884	△177	234	412
短期社債	—	—	—	—	—
社債	269,042	268,098	△944	303	1,248
その他	2,150,581	2,143,336	△7,245	17,803	25,049
外国株式	3	27	24	24	—
外国債券	1,692,225	1,672,190	△20,035	3,572	23,607
その他	458,352	471,117	12,765	14,207	1,441
合計	3,587,532	4,084,004	496,472	533,919	37,446

(注) 1. 評価差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は643百万円（費用）であります。
2. 連結貸借対照表計上額は、株式については当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。
3.「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。
4. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という）しております。
当連結会計年度における減損処理額は、2,739百万円であります。また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定において、有価証券の発行会社の区分が正常先に該当するものについては、時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合とし、今後の管理に注意を要する要注意先以下に該当するものについては、時価が取得原価に比べ30%以上下落した場合であります。

(4) 平成18年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 平成18年度中に売却したその他有価証券

(単位:百万円)

	平成18年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他有価証券	3,248,298	27,204	19,143

(6) 時価評価されていない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額

(単位:百万円)

	平成19年3月末
満期保有目的の債券	—
その他有価証券	
非上場債券	237,619
貸付信託受益証券	225,258
非上場外国証券	92,060

(7) 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

(8) その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額

(単位:百万円)

	平成19年3月末			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
債券	344,357	960,828	535,419	55,069
国債	196,627	463,310	410,683	53,060
地方債	5,109	23,829	33,045	—
短期社債	—	——	——	——
社債	142,620	473,689	91,690	2,009
その他	264,901	712,136	628,122	661,043
外国債券	164,101	522,380	600,519	436,140
その他	100,799	189,756	27,602	224,902
合計	609,258	1,672,965	1,163,542	716,112

金銭の信託関係　連　結

平成19年度

(1) 運用目的の金銭の信託

(単位:百万円)

	平成20年3月末	
	連結貸借対照表計上額	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	15,533	△59

(2) 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3) その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

(単位:百万円)

	平成20年3月末				
	取得原価	連結貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
その他の金銭の信託	2,000	2,000	—	—	—

(注) 当連結会計年度末において、信託財産構成物に時価のある有価証券等は含まれておりません。

平成18年度

(1) 運用目的の金銭の信託

(単位:百万円)

	平成19年3月末	
	連結貸借対照表計上額	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	18,031	460

(2) 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3) その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

(単位:百万円)

	平成19年3月末				
	取得原価	連結貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
その他の金銭の信託	2,000	2,000	—	—	—

(注) 当連結会計年度末において、信託財産構成物に時価のある有価証券等は含まれておりません。

その他有価証券評価差額金

連　結

平成19年度

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	平成20年3月末
評価差額	**111,382**
その他有価証券	**111,382**
その他の金銭の信託	—
（△）繰延税金負債	**45,383**
その他有価証券評価差額金（持分相当額調整前）	**65,998**
（△）少数株主持分相当額	**46**
（＋）持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	**6**
その他有価証券評価差額金	**65,958**

（注）1. 時価ヘッジの適用により損益に反映させた額243百万円（費用）については、「評価差額」の内訳「その他有価証券」から除いて記載しております。
2. 時価のない外貨建その他有価証券に係る為替換算差額及び投資事業組合等の評価差額については、「評価差額」の内訳「その他有価証券」に含めて記載しております。

平成18年度

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	平成19年3月末
評価差額	497,074
その他有価証券	497,074
その他の金銭の信託	—
（△）繰延税金負債	201,564
その他有価証券評価差額金（持分相当額調整前）	295,510
（△）少数株主持分相当額	274
（＋）持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	△22
その他有価証券評価差額金	295,213

（注）1. 時価ヘッジの適用により損益に反映させた額643百万円（費用）については、「評価差額」の内訳「その他有価証券」から除いて記載しております。
2. 時価のない外貨建その他有価証券に係る為替換算差額及び投資事業組合等の評価差額については、「評価差額」の内訳「その他有価証券」に含めて記載しております。

デリバティブ取引関係

連　結

平成19年度
1.取引の状況に関する事項

当社は、銀行法施行規則第13条の6の3に基づき、特定取引勘定（以下「トレーディング勘定」という）を設置して、それ以外の勘定（以下「バンキング勘定」という）で行う取引と区分しております。

(1) 取引の内容

①トレーディング勘定

金利、通貨、債券及び商品の店頭又は上場のデリバティブ取引を行っております。

具体的には、金利先物取引、金利スワップ取引、金利先渡契約取引、金利オプション取引、通貨スワップ取引、通貨先物取引、為替予約取引、通貨オプション取引、債券先物取引、債券先物オプション取引及び商品先物取引等であります。

②バンキング勘定

金利、通貨、株式及び債券の店頭又は上場のデリバティブ取引を行っております。

具体的には、トレーディング勘定で行う取引に加え、債券店頭オプション取引、株式指数先物取引、株式指数オプション取引、有価証券店頭オプション取引、有価証券店頭指数等スワップ取引及びクレジットデリバティブ取引等であります。

(2) 取引の利用目的及び取引に対する取組方針

①トレーディング勘定

短期的な売買や市場間の価格差等を利用しての収益の獲得、また、お客様からの金利変動に対するヘッジニーズ等へ対応する目的でデリバティブ取引を利用しております。取組に関しては、バンキング勘定との区分経理を担保するため、組織を分離しております。

②バンキング勘定

当社の市場リスクを回避する目的でデリバティブ取引を利用しております。なお、主要なリスクである金利リスクについては、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。貸出金、預金等の多数の金融資産・負債を金利リスクの特性毎に区分した上で包括的に管理しており、繰延ヘッジによる会計処理を行っております。また、一部の資産・負債については、個別取引毎の繰延ヘッジを行っております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

なお、連結子会社のヘッジ会計の方法は、個別取引毎の時価ヘッジ、繰延ヘッジ、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

(3) 取引に係るリスクの内容

デリバティブ取引に係るリスクとしては、主に取引対象物の市場価格変動による市場リスク及び取引先の契約不履行による信用リスクがあります。

市場リスクの主な要因は、金利の変動、為替の変動、株価の変動、債券相場の変動及び商品相場の変動等が考えられます。

なお、価格変動に対する時価の変動等が大きな取引（レバレッジの大きな取引）は行っておりません。

信用リスクの主な要因は、取引相手先の信用の悪化が考えられますが、店頭取引に関しては信用度に応じて相手先毎に適切に管理しております。

(4) 取引に係るリスク管理体制

当社では、グローバルに業務を展開する金融機関として、「国際標準」に適ったリスク管理体制の構築に取組んでおります。

市場リスクの運営・管理に関する意思決定については、機動的かつ迅速な意思決定を行うために取締役をメンバーとしたALM審議会を設置しております。ALM審議会で決定された基本方針のもと、独立したミドルオフィスであるリスク統括部が市場リスク・流動性リスク及び損益の計測・集計を行い、合わせてリスクリミット及びロスリミットの遵守状況を経営陣に直接報告しております。このようなリスク管理を実効性あるものとするため、ミドルオフィス、後方事務部門（バックオフィス）及び市場性取引部門（フロントオフィス）間において相互牽制体制を確立しております。また、業務監査部による監査に加えて、外部監査人による定期的監査を受けております。

信用リスクについては、取締役をメンバーとした投融資審議会が、与信業務における基本方針を決定するとともに、取引先の格付け、重要案件の審議等を行っております。与信業務に関わる極度額や内部ルールを明確に定めており、取引部署と審査部署やリスク統括部、業務監査部との間の相互牽制が有効に機能される体制を整えております。

また、当社のALM審議会、投融資審議会では、連結ベースのリスク管理を行う体制を取っております。

(5) 契約額・時価等に関する補足説明

「2.取引の時価等に関する事項」における契約額等は、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスク量又は信用リスク量を示すものではありません。

2.取引の時価等に関する事項

(1) 金利関連取引

（単位:百万円）

	平成20年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
金利先物				
売建	20,238,554	3,724,235	△60,221	△60,221
買建	22,116,851	5,113,610	60,244	60,244
金利オプション				
売建	331,025	—	△84	△5
買建	459,345	—	49	△7
店頭				
金利先渡契約				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
金利スワップ				
受取固定･支払変動	64,485,897	55,174,216	1,696,864	1,696,864
受取変動･支払固定	65,926,234	55,970,605	△1,631,984	△1,631,984
受取変動･支払変動	2,492,429	1,840,429	1,022	1,022
金利オプション				
売建	23,603,453	23,474,767	△261,514	△181,419
買建	18,365,956	18,157,553	425,079	195,310
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	229,455	79,802

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づき、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

デリバティブ取引関係

(2) 通貨関連取引

(単位:百万円)

	平成20年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
通貨先物				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
通貨オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
店頭				
通貨スワップ	907,893	814,184	29,733	29,733
為替予約				
売建	3,804,622	582,392	100,595	100,595
買建	4,519,754	709,474	△124,816	△124,816
通貨オプション				
売建	2,769,260	1,545,083	△118,900	△20,113
買建	2,592,346	1,390,913	111,629	35,171
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	△1,759	20,570

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づき、ヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3) 株式関連取引

(単位:百万円)

	平成20年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
株式指数先物				
売建	41,651	—	△383	△383
買建	40,753	—	35	35
株式指数オプション				
売建	7,475	—	△51	14
買建	22,801	—	235	△100
店頭				
有価証券店頭オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
有価証券店頭指数等スワップ				
株価指数変化率受取・短期変動金利支払	—	—	—	—
短期変動金利受取・株価指数変化率支払	—	—	—	—
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	△165	△434

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(4) 債券関連取引

(単位:百万円)

	平成20年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
債券先物				
売建	1,032,127	—	△3,958	△3,958
買建	982,222	—	349	349
債券先物オプション				
売建	150,930	—	△549	230
買建	82,861	—	413	△275
店頭				
債券店頭オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	△3,745	△3,653

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデル等により算定しております。

(5) 商品関連取引

平成20年3月末

該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引

(単位:百万円)

	平成20年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
店頭				
クレジットデリバティブ				
売建	80,000	80,000	△1,870	△1,870
買建	70,057	70,057	2,455	2,455
合計	——	——	584	584

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
割引現在価値により算定しております。
3.「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。

デリバティブ取引関係

平成18年度

1.取引の状況に関する事項

当社は、銀行法施行規則第13条の6の3に基づき、特定取引勘定（以下「トレーディング勘定」という）を設置して、それ以外の勘定（以下「バンキング勘定」という）で行う取引と区分しております。

(1) 取引の内容

①トレーディング勘定

金利、通貨、債券及び商品の店頭又は上場のデリバティブ取引を行っております。

具体的には、金利先物取引、金利スワップ取引、金利先渡契約取引、金利オプション取引、通貨スワップ取引、通貨先物取引、為替予約取引、通貨オプション取引、債券先物取引、債券先物オプション取引及び商品先物取引等であります。

②バンキング勘定

金利、通貨、株式及び債券の店頭又は上場のデリバティブ取引を行っております。

具体的には、トレーディング勘定で行う取引に加え、債券店頭オプション取引、株式指数先物取引、株式指数オプション取引、有価証券店頭オプション取引、有価証券店頭指数等スワップ取引及びクレジットデリバティブ取引等であります。

(2) 取引の利用目的及び取引に対する取組方針

①トレーディング勘定

短期的な売買や市場間の価格差等を利用しての収益の獲得、また、お客様からの金利変動に対するヘッジニーズ等へ対応する目的でデリバティブ取引を利用しております。取組に関しては、バンキング勘定との区分経理を担保するため、組織を分離しております。

②バンキング勘定

当社の市場リスクを回避する目的でデリバティブ取引を利用しております。なお、主要なリスクである金利リスクについては、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。貸出金、預金等の多数の金融資産・負債を金利リスクの特性毎に区分した上で包括的に管理しており、繰延ヘッジによる会計処理を行っております。また、一部の資産・負債については、個別取引毎の繰延ヘッジを行っております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

なお、連結子会社のヘッジ会計の方法は、個別取引毎の時価ヘッジ、繰延ヘッジ、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

(3) 取引に係るリスクの内容

デリバティブ取引に係るリスクとしては、主に取引対象物の市場価格変動による市場リスク及び取引先の契約不履行による信用リスクがあります。

市場リスクの主な要因は、金利の変動、為替の変動、株価の変動、債券相場の変動及び商品相場の変動等が考えられます。

なお、価格変動に対する時価の変動等が大きな取引（レバレッジの大きな取引）は行っておりません。

信用リスクの主な要因は、取引相手先の信用の悪化が考えられますが、店頭取引に関しては信用度に応じて相手先毎に適切に管理しております。

(4) 取引に係るリスク管理体制

当社では、グローバルに業務を展開する金融機関として、「国際標準」に適ったリスク管理体制の構築に取組んでおります。

市場リスクの運営・管理に関する意思決定については、機動的かつ迅速な意思決定を行うために取締役をメンバーとしたALM審議会を設置しております。ALM審議会で決定された基本方針のもと、独立したミドルオフィスであるリスク統括部が市場リスク・流動性リスク及び損益の計測・集計を行い、合わせてリスクリミット及びロスリミットの遵守状況を経営陣に直接報告しております。このようなリスク管理を実効性あるものとするため、ミドルオフィス、後方事務部門（バックオフィス）及び市場性取引部門（フロントオフィス）間において相互牽制体制を確立しております。また、業務監査部による監査に加えて、外部監査人による定期的監査を受けております。

信用リスクについては、取締役をメンバーとした投融資審議会が、与信業務における基本方針を決定するとともに、取引先の格付け、重要案件の審議等を行っております。与信業務に関わる極度額や内部ルールを明確に定めており、取引部署と審査部署やリスク統括部、業務監査部との間の相互牽制が有効に機能される体制を整えております。

また、当社のALM審議会、投融資審議会では、連結ベースのリスク管理を行う体制を取っております。

(5) 契約額・時価等に関する補足説明

「2.取引の時価等に関する事項」における契約額等は、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスク量又は信用リスク量を示すものではありません。

2.取引の時価等に関する事項

(1) 金利関連取引

（単位：百万円）

	平成19年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
金利先物				
売建	19,454,224	2,556,984	1,635	1,635
買建	18,359,178	1,815,857	△2,537	△2,537
金利オプション				
売建	2,165,560	—	△85	196
買建	1,711,491	—	152	△180
店頭				
金利先渡契約				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
金利スワップ				
受取固定・支払変動	45,196,447	40,308,449	93,276	93,276
受取変動・支払固定	45,193,109	39,820,712	△67,320	△67,320
受取変動・支払変動	2,170,165	1,972,725	1,364	1,364
金利オプション				
売建	21,087,970	21,036,136	△50,493	39,215
買建	12,951,464	12,939,464	93,914	△38,989
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	69,905	26,659

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づき、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融先物取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位:百万円)

	平成19年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
通貨先物				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
通貨オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
店頭				
通貨スワップ	270,125	99,331	46	46
為替予約				
売建	2,810,313	265,427	△38,889	△38,889
買建	3,394,952	411,540	52,899	52,899
通貨オプション				
売建	2,517,170	932,301	△58,089	△1,427
買建	2,170,678	676,941	41,473	△2,808
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	△2,558	9,820

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づき、ヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3) 株式関連取引

(単位:百万円)

	平成19年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
株式指数先物				
売建	100,111	—	△1,274	△1,274
買建	66,261	—	575	575
株式指数オプション				
売建	53,965	—	△334	127
買建	78,457	—	320	△345
店頭				
有価証券店頭オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
有価証券店頭指数等スワップ				
株価指数変化率受取・短期変動金利支払	—	—	—	—
短期変動金利受取・株価指数変化率支払	—	—	—	—
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	△712	△916

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。

(4) 債券関連取引

(単位:百万円)

	平成19年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
取引所				
債券先物				
売建	1,101,633	—	3,526	3,526
買建	1,142,550	—	△3,769	△3,769
債券先物オプション				
売建	340,376	—	△379	287
買建	474,311	—	362	△533
店頭				
債券店頭オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	——	——	△260	△489

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデル等により算定しております。

(5) 商品関連取引

平成19年3月末

該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引

(単位:百万円)

	平成19年3月末			
	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時　価	評価損益
店頭				
クレジットデリバティブ				
売建	81,000	81,000	153	153
買建	264,209	264,209	△679	△679
合計	——	——	△525	△525

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定
割引現在価値により算定しております。
3.「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。

セグメント情報　連　結

(1) 事業の種類別セグメント情報

(単位:百万円)

	平成19年度					
	銀行信託事業	リース事業	金融関連事業	計	消去又は全社	連　結
Ⅰ経常収益						
(1)外部顧客に対する経常収益	688,241	355,033	52,375	1,095,650	—	1,095,650
(2)セグメント間の内部経常収益	15,259	476	1,549	17,285	(17,285)	—
計	703,501	355,509	53,925	1,112,935	(17,285)	1,095,650
経常費用	580,833	347,012	47,219	975,065	(16,400)	958,664
経常利益	122,667	8,496	6,706	137,870	(884)	136,985
Ⅱ資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	21,389,944	1,140,201	372,591	22,902,737	(722,002)	22,180,734
減価償却費	13,922	932	458	15,313	—	15,313
減損損失	82	63	23	170	—	170
資本的支出	21,336	2,379	551	24,267	—	24,267

(注) 1. 各事業の主な内容は次のとおりであります。
①銀行信託事業…信託銀行業及びその付随業務、従属業務
②リース事業…リース業
③金融関連事業…金銭貸付業、クレジットカード業等
2. 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
3. 資本的支出にはシステム関連投資等を含んでおります。
4. 負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理しておりましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号)が平成19年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることに伴い、当連結会計年度から同報告を適用し、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、「銀行信託事業」について819百万円経常利益が減少しております。

(単位:百万円)

	平成18年度					
	銀行信託事業	リース事業	金融関連事業	計	消去又は全社	連　結
Ⅰ経常収益						
(1)外部顧客に対する経常収益	570,615	241,472	41,278	853,365	—	853,365
(2)セグメント間の内部経常収益	4,574	242	9,209	14,025	(14,025)	—
計	575,189	241,714	50,487	867,391	(14,025)	853,365
経常費用	424,490	231,367	31,822	687,681	(4,486)	683,194
経常利益	150,698	10,346	18,664	179,710	(9,538)	170,171
Ⅱ資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	20,209,834	1,114,690	240,724	21,565,248	(562,183)	21,003,064
減価償却費	12,997	635	439	14,071	—	14,071
減損損失	6,950	102	35	7,088	—	7,088
資本的支出	61,405	2,049	530	63,985	—	63,985

(注) 1. 各事業の主な内容は次のとおりであります。
①銀行信託事業…信託銀行業及びその付随業務、従属業務
②リース事業…リース業
③金融関連事業…金銭貸付業、クレジットカード業等
2. 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
3. 資本的支出にはシステム関連投資等を含んでおります。

(2) 所在地別セグメント情報

(単位:百万円)

	平成19年度						
	日　本	米　州	欧　州	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連　結
Ⅰ経常収益							
(1)外部顧客に対する経常収益	960,781	62,385	49,298	23,185	1,095,650	—	1,095,650
(2)セグメント間の内部経常収益	23,703	17,289	3,681	5,356	50,029	(50,029)	—
計	984,484	79,674	52,979	28,541	1,145,679	(50,029)	1,095,650
経常費用	792,810	89,067	97,962	26,208	1,006,048	(47,383)	958,664
経常利益(△は経常損失)	191,674	△9,393	△44,983	2,333	139,631	(2,645)	136,985
Ⅱ資産	21,217,581	1,538,712	928,336	583,634	24,268,265	(2,087,530)	22,180,734

(注) 1. 当社の本支店及び連結子会社について、地理的な近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と地域毎に区分のうえ、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2.「米州」には米国等が属しております。「欧州」には英国等が属しております。「アジア・オセアニア」にはシンガポール等が属しております。
3. 負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理しておりましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号)が平成19年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることに伴い、当連結会計年度から同報告を適用し、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、「日本」について819百万円経常利益が減少しております。

(単位:百万円)

	平成18年度						
	日　本	米　州	欧　州	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連　結
Ⅰ経常収益							
(1)外部顧客に対する経常収益	737,317	46,825	42,642	26,581	853,365	—	853,365
(2)セグメント間の内部経常収益	13,614	10,859	2,570	3,855	30,899	(30,899)	—
計	750,931	57,684	45,212	30,436	884,265	(30,899)	853,365
経常費用	589,325	52,054	42,595	28,445	712,420	(29,226)	683,194
経常利益	161,605	5,630	2,617	1,990	171,844	(1,672)	170,171
Ⅱ資産	19,424,891	1,506,628	1,050,218	509,191	22,490,930	(1,487,866)	21,003,064

(注) 1. 当社の本支店及び連結子会社について、地理的な近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と地域毎に区分のうえ、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2.「米州」には米国等が属しております。「欧州」には英国等が属しております。「アジア・オセアニア」にはシンガポール等が属しております。

(3) 海外経常収益

(単位:百万円)

	平成18年度	平成19年度
Ⅰ海外経常収益	116,048	134,868
Ⅱ連結経常収益	853,365	1,095,650
Ⅲ海外経常収益の連結経常収益に占める割合	13.5%	12.3%

(注) 1. 一般企業の海外売上高に代えて、海外経常収益を記載しております。
2. 海外経常収益は、当社の海外店取引、並びに海外連結子会社の取引に係る経常収益(ただし、連結会社間の内部経常収益を除く)で、こうした膨大な取引を相手先別に区分していないため、国又は地域毎のセグメント情報は記載しておりません。

リスク管理債権の状況　連　結

（単位：億円）

	平成19年3月末	平成20年3月末
銀行勘定		
破綻先債権額	25	**11**
延滞債権額	931	**561**
3カ月以上延滞債権額	0	**0**
貸出条件緩和債権額	395	**776**
合計	1,352	**1,349**
信託勘定		
破綻先債権額	—	**—**
延滞債権額	26	**146**
3カ月以上延滞債権額	—	**—**
貸出条件緩和債権額	168	**7**
合計	195	**154**
銀信合算		
総合計	1,547	**1,503**

（注）部分直接償却（平成19年3月末298億円、平成20年3月末294億円）後の計数。

金融再生法に基づく資産区分の状況　連　結

（単位：億円・四捨五入）

	平成19年3月末	平成20年3月末
銀行勘定		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	168	**154**
危険債権	862	**491**
要管理債権	411	**795**
合計	1,442	**1,440**
信託勘定		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	23	**19**
危険債権	4	**128**
要管理債権	168	**7**
合計	195	**154**
銀信合算		
総合計	1,637	**1,594**

（注）部分直接償却（平成19年3月末320億円、平成20年3月末320億円）後の計数。